

< セミナーのご案内 >

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 439 (通算 771 回)

開催延期となりました

ポスト・コロナで“再び選ばれる”ための大学キャンパス

国際教育交流の環境変容への対応シナリオ

～ リアル&オンラインによる“留学コンセプト”の深耕/東京規約と MC 活用 ～

- ※ コロナ禍以降で何が起きたか/失ったもの、得たもの/政策と現場/いま日本に欠けているもの
- ※ ICT を活用した大学国際化の新潮流と手法/メリット&デメリット/大学間連携/方向性と展望
- ※ 学歴・資格認証/マイクロクレデンシヤル (MC) をめぐる世界動向/東京規約と日本での可能性
- ※ [APU] COIL の設計・運営そして活用/海外研修プログラムの再構築/国際教育は変わるか

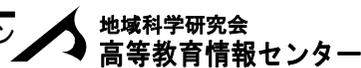
● 講師・パネリスト陣 ●

- 堀江 学 氏 / I E E F 国際教育交流フォーラム 代表
- 太田 浩 氏 / (国) 一橋大学 森有礼高等教育国際流動化機構全学共通教育センター 教授
- 芦沢 真五 氏 / 関西国際大学 副学長 国際コミュニケーション学部 教授
- 近藤 祐一 氏 / 立命館アジア太平洋大学 教育開発・学修支援センター 教授



【企画協力】 I E E F 国際教育交流フォーラム / 学校法人 城西大学

2022 年 7 月 22 日 (金) 城西大学 東京紀尾井町キャンパス (東京・麹町) & オンライン



日 時 : 2022 年 7 月 22 日 (金) 13:00 ~ 16:50

会 場 : 城西大学 東京紀尾井町キャンパス 3 号棟

国際会議場 (東京・麹町) 東京都千代田区平河町 2-3-20

アクセス : 東京メトロ有楽町線「麹町駅」1 番出口より徒歩 5 分

東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」1 番出口より徒歩 7 分

※ 返信メールの送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。

参加費 : A. ご一名 (資料代込) 35,000 円 (税込)

B. メディア参加 (資料・音声 CD 送付) 37,000 円 (送料、税込)

C. 高等教育同人 (☆) 18,000 円 (税込)

※ 「オンライン当日参加」は、ウェブ会議システム「Zoom (ズーム)」を使用予定です。

※ メディア参加とは、開催当日に聴講が難しい方の参加形式です。開催後に当日配布資料及び講義の音声を収録した CD を送付します。

※ 当日参加とともに、音声 CD をご希望の方には、「別途 CD 代」をご案内いたしますのでお問い合わせ願います。

※ 参加費の払い戻しは致しません。

(※ 参加申込みの折は、必ず下記事項をご記入の上、FAX か E-mail にてお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 439

(該当する□に✓印を)

年 月 日

国際教育交流の環境変容への対応シナリオ

当日会場参加 オンライン当日参加 メディア参加

勤務先 _____

支払方法 当日払い 銀行振込

所在地 (〒 _____)

必要書類 請求書 見積書 領収書

(請求書等記載の宛名 _____)

TEL _____

FAX _____

連絡部課・担当者名 _____

メールアドレス _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス (※返信いたしますので、必ずご記入願います)

※ この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
13:00 ～ 13:40	<p>□ コロナ禍からポスト・コロナの日本留学 ～ 諸外国と日本の国際教育交流に何が起きたのか。私たちはどこへ向かうのか ～ 国際教育交流フォーラム 堀江 学</p> <p>1. コロナ禍の経緯と国際教育交流 (1) 海外各国での経緯。社会、教育機関 (2) 日本での経緯。社会、教育機関 (3) 政策と教育現場</p> <p>2. どこで何を判断し、決定したのか。国民は、メディアは、教育機関は、どう反応したか。 (1) 日本： (2) 欧米： (3) アジア：</p> <p>3. 私たちはどこへ向かうのか (1) コロナの終息とリモート教育で得たものの継承。 (2) 失ったものと得たもの。再び、パンデミックが起きたときには。 (3) 世界の動向と日本の今後。いま、日本に欠けているものとは。</p>
13:40 ～ 14:20	<p>□ ポストコロナの国際教育と学生交流を考える ～ICT を活用による大学国際化の新潮流～ (国) 一橋大学 太田 浩</p> <p>1. ICT を活用した国際教育交流の手法 (1) Virtual Exchange (2) Virtual Mobility (3) Blended Learning</p> <p>2. オンライン国際教育交流の影響と変化 (1) オンライン国際教育交流のメリットとデメリット (2) オンライン国際教育交流で何がどう変わっているのか (3) ICT 活用による大学間連携 (パートナーシップ) の変化 (4) ICT の活用がもたらす高等教育への影響と変化</p> <p>3. ポストコロナの国際教育と学生交流の方向性と展望 (1) オンライン国際教育における日本の課題 (2) ICT の活用により留学、国際学生交流はどう変わるか (3) ICT の活用により大学国際化はどう変わるか (4) ポストコロナで世界から選ばれる国、大学になるためにはどうすべきか</p>
14:30 ～ 15:10	<p>□ マイクロレデンシャル (MC) をめぐる世界の動向と日本の課題 ～ 大学におけるMC活用の可能性 ～ 関西国際大学 芦沢 真五</p> <p>1. 資格・学歴を記録する手法 (外国学修歴の認証を例に) (1) アナログ時代の学歴・資格認証 (2) デジタル時代における学歴・資格認証 (3) 学歴・資格にかかわるデータは誰のものか</p> <p>2. マイクロレデンシャル (MC) をめぐる世界的動向 (1) OECD による MC 動向調査 (2) 欧州における大学ネットワークによる活用 (3) 豪州における MC 運用ガイドライン</p> <p>3. 日本の大学における MC 発展の可能性 (1) MC の運用はすでに始まっている？ (2) 教育における DX の進展と MC の需要 (3) 東京規約と MC の可能性</p>
15:10 ～ 15:50	<p>□ [APU] グローバルキャンパスの第2ステージを拓く ～ リアル&オンラインによる教育プログラムの深化 ～ 立命館アジア太平洋大学 近藤 祐一</p> <p>1. 大学にとっての国際教育の意味 (1) コロナ禍前までの国際教育 (2) コロナ禍によって再考を求められた国際教育 (3) APU の危機</p> <p>2. 「国際教育」のオンライン化から考えられた大学教育-1 (1) COIL という理想型 (2) 疑似 COIL を設計・運営して見えてきたもの (3) 大学教育は変わるのか</p> <p>3. 「国際教育」のオンライン化から考えられた大学教育-2 (1) 海外研修プログラムをオンラインで置き換えることは可能なのか (2) 大規模初年次海外研修プログラム(300名規模)のオンライン化 (3) 海外研修プログラムの再構築</p>
16:00 ～ 16:50	<p>□ [パネル討論] ポスト・コロナの国際教育交流を拓く ～ 参加各位を交えて ～ 司会 堀江 学 パネリスト 太田 浩 / 芦沢 真五 / 近藤 祐一</p>